2021/12/19
ヨハネの手紙第一　講解メッセージ④
『本当のクリスマス』Ⅰヨハネ 2:3-14

■キリストが歩まれた道

「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」（Ⅰヨハネ 2:3-6）

聖書の特徴として、同じ内容のことを別のことばで言い換えるということがよくあります。それは、一人でも多くの人に神のことばを理解してもらいたいという神の配慮です。ここでは、「神の命令を守ること」を「みことばを守ること」と言い換えています。そして、「みことばを守っている者なら、神の愛が全うされている」と言われています。それは、私たちが御言葉を守ろうとすると、それを実行できない自分にすぐに気づく、つまり自分の罪に気づくので、それが光の中を歩む道につながるという意味なのです。

「もし私たちが、神と交わりがあると言っていながら、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであって、真理を行なってはいません。しかし、もし神が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。　もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。」（Ⅰヨハネ 1:6-10）

闇の中を歩むとは、悪いことをしないという意味ではなく、自分を正しいとする生き方のことです。それに対して、光とは神の赦しを意味します。光の中を歩むとは、自分の罪を言い表して神様に赦してもらう生き方のことです。

つまり、御言葉を実行しようとしてもできない自分に気づくと、自分の罪を赦してもらいたいと願うようになります。こうして神様に赦しを求めて、それを受け取ることが、神の愛が全うされているということです。イエス様は「多く赦された者は多く愛するようになる」と言われました。私たちには愛が必要です。多くの赦しを経験することによって多くの愛を

受け取り、それによって私たちは神を愛するようになります。それは、そのまま人を愛する道につながります。

> 「神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」（Ⅰヨハネ 2:6）

キリストが歩まれた道とは神を愛する道です。御言葉を守って生きる者は神の赦しを受け、神を愛する道を歩む――それが、キリストが歩まれたように歩む道です。

■新しい命令

> 「愛する者たち。私はあなたがたに新しい命令を書いているのではありません。むしろ、これはあなたがたが初めから持っていた古い命令です。その古い命令とは、あなたがたがすでに聞いている、みことばのことです。しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まことの光がすでに輝いているからです。」
> （Ⅰヨハネ 2:7-8）

神の命令は、すべて「神を愛せよ」ということばに集約されます。
「聞きなさい。イスラエル。主は私たちの神。主はただひとりである。心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」（申命記 6:4-5）イエス様は、この御言葉をよく引用なさいました。そして、同様に隣人も愛せよと言われました。

ここでヨハネは、この古い命令を新しい命令として書き送ると言っています。人は、旧約の時代から、神を愛そう、人を愛そうとしてもなかなかできず、どうしても神の命令に従うことができないでいました。しかし、今は違います。

確かに、従えない現実は今も変わりません。しかし今は、その罪が赦されることを知ったのです。これが、闇の中に輝く光です。イエス様が十字架に架かってくださる前までは、私たちは、神が罪を赦す方であることをあいまいにしか知りませんでした。しかし、イエス様が十字架に架かってくださったことによって、明確にわかるようになったのです。

神を愛する道とは、赦される道を歩くということです。闇の中で赦されることを知り安心して生きていきなさいと、聖書は教えているのです。そうすれば神への愛が育ち、人への愛が育つのです。

> 「光の中にいると言いながら、兄弟を憎んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。兄弟を愛する者は、光の中にとどまり、つまずくことがありません。兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。」（Ⅰヨハネ 2:9-11）

兄弟を憎むとは人を愛せないということです。それは、罪が赦される経験をしていないからです。本気で赦される経験をしたら、人の罪を裁かず、赦せるようになります。それが、ひかりの中にいるなら兄弟を愛することになるということです。

人を愛せないのは赦せないことがあるからです。それを赦せるようになるためには、自分が赦される経験が必要です。ひかりの中にとどまるとは、自分の罪が赦されていることを知るということです。そうすれば、誰をも裁かなくなるのでつまずくことはありません。

> 「子どもたちよ。私があなたがたに書き送るのは、主の御名によって、あなたがたの罪が赦されたからです。」（Ⅰヨハネ 2:12）

私たちは、神の前ではすでに赦されています。ですから、ポイントはそれを受け取るかどうかということです。

神は、あなたがどんな罪人であろうと、そんなことには関係なく、あなたを受け入れておられます。これが、神を愛する道であり、光の中を歩むということです。

昔も今も、クリスチャンとは立派な人で、クリスチャンになったら守らなければいけない戒律がたくさんあると誤解している人がたくさんいます。しかし、そんなことはありません。クリスチャンになるとは、罪があることを認めることであって、私たちは罪が赦される経験を積み上げていけばよいだけです。そうすれば、やがて人を愛せるようになっていくのです。クリスチャンになるとは、本当にありのままの自分が受け入れられることであって、まったく敷居が高いものではありません。イエス様の十字架によってすでにあなたは赦されているのですから、ただその愛を受け取ればよいだけです。

■闇に打ち勝つ方法

> 「父たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。父たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。小さい者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。」（Ⅰヨハネ 2:13-14）

「神を知る」とは「罪が赦されることを知る」ことです。それが、「私たちが悪い者に打ち勝った」ということです。

私たちが罪を犯すのは、悪魔の仕業によります。そして、神が来られたのは、悪魔の仕業

を打ちこわすためです。私たちはどうやって悪魔に打ち勝つことができるのでしょうか。それは赦されることによってです。神は、悪い者が何をしてこようと、私たちの罪を赦します。ですから、悪魔に打ち勝つことができるのです。私たちは勝つというと、何かが実行できるようになると考えがちですが、そうではありません。聖書が一貫して教えていることは、神を知っている者は永遠のいのちを持っており、すでに死に打ち勝っているということです。これによって、悪い者に打ち勝っていると言えるのです。

私たちは生まれながらに、死という闇をもって生まれてきました。私たちはその闇におびえ、闇の中で少しでも平安を手にしようとして、見える安心をむさぼって生きてきました。これが罪です。少しでも良い物を手に入れ、少しでも良い評判を手に入れることで安心しようとしてきたのですが、どんなに頑張って手に入れたものでも、最後はすべて死に飲み込まれてしまいます。しかし、イエス・キリストは、その闇の中に突入したのです。つまり闇であった私たちの中にイエス・キリストが入り込んでこられたのです。それがクリスマスです。こうして私たちは光を知るようになりました。これが本当のクリスマスなのです。私たちの中にイエス・キリストが来られたということ、それは、闇の中に光が突入したということです。イエス・キリストは、こうして私たちの中に死を乗り越える永遠のいのちを与えてくださいました。これが「赦される」ということです。このことを知ることが、神を知るということであり、悪い者に打ち勝ったということなのです。

私たちが闇に勝つ方法、すなわち罪に打ち勝つことができるようになるのは、赦されることを通してです。それが、私たちの闇を覆い隠す光となるのです。

■まことの光

この世界では、誰もが苦しみに出会います。人間関係のこと、健康のこと、経済のこと……、これらの苦しみに出会うと「神がおられるなら、なぜこんな苦しみが起こるのか」と思うこともあるでしょう。また、私たちはそれぞれ生まれながらに持っている体格や能力、環境が異なります。それらを自分で選択することはできません。貧しさ、豊かさ、災害にあう人もいれば、戦争のさなかに生まれる人もいます。なぜこのような差があるのでしょうか。なぜ苦しみがあるのでしょうか。そして、苦しみの中でもっとも強力な闇は肉体の死です。この世界で何をしようとも、最後は死に飲み込まれてしまいます。なぜ私たちは死の恐怖を味わわなければならないのでしょうか。

この問いに対して、神は明確な答えをくださいました。イエス・キリストは、ただ罪を赦し病気をいやすだけでなく、私たちの苦しみを背負い、最大の闇である死を背負って十字架に架かり、命を捨てられました。そして、苦しみの意味を教えてくださったのです。それは、復活です。イエス様は死の中からよみがえり、まことに闇の中に輝く光となることを通して、あなたがたの苦しみには復活があり、答えがあることを示してくださいました。こうして、永遠のいのちを教え、これが答えだと教えてくださったのです。

ある時、弟子たちはイエス様に、生まれながらに目の見えない人を指さして「この人の目が見ないのは、この人が罪を犯したからですか。それとも両親ですか。」と尋ねました。これは、災いや苦しみは誰かの罪のせいでバチが当たったのだという考えから来ています。しか

しイエス様はそれに対して、「誰かの罪のせいではない。神の栄光が現れるためだ。」とお答えになりました。苦しみのあるところに神の光が現れるのです。神の答えは光です。あなたがどんなにくるしみを味わっても、それは希望に代わります。イエス様はこのことを教えるため、人類の最大の苦しみである死を背負って、十字架に架かられたのです。

イエスはただ罪を赦すと言っただけではなく、実際にすべての闇を光に変えられたのです。それが復活です。このことを知ることが本当のクリスマスです。本当のクリスマスは、あなたの闇の中に光がすでに輝いていると知ることです。闇は過ぎ去って、まことの光がすでに輝いているのです。

> 「しかし、私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まことの光がすでに輝いているからです。」（Ⅰヨハネ 2:8）

今さまざまなことで苦しんでおられる方がいらっしゃると思いますが、「もう光は輝いているから心配しないで安心して生きていきなさい」というのが神からの答えです。「神はあなたを裁かない。あなたを赦し、光の中に引き上げる。」神が私たちに示されたこの答えを知り、感謝をすることが本当のクリスマスです。闇の中にすでに光が輝いていることを覚えていただければ幸いです。